

## インドネシア文化に触れる

アジア文化学科4年 大迫 望

2007年の3月と8月にインドネシアのジャワ島中部に位置するソロを訪れた。その一番の目的はジャワ舞踊を習うためである。

大学2年のときに受講した「アジア音楽演習」で、インドネシアの伝統音楽であるガムランの演奏とジャワ舞踊の実技を学び、それらに強く惹かれた。ガムランの、きらきら輝く青銅のさまざまな楽器から響く心地良い音色。ガムラン音楽の拍に合わせてゆったりとなめらかに動くジャワ舞踊。それまで音楽や踊りをまともにしたことがなかった私だが、気付けばガムラン部に所属していた。ジャワ舞踊を習い始めたのは3年のときからで、田村先生の指導のもとでジャワ舞踊の最も基本的な動きを1年間学んだ。そして卒論のテーマを「ジャワ舞踊の実践」とした福島幸恵さんと私は、現地で舞踊を習うことにしたのである。

現地での舞踊の先生は田村先生から紹介していただき、1度目に訪れたときは次の段階の基本的な動きを習い、2度目には卒論として踊る舞踊を習った。練習場所は私たちが宿泊していた宿の一室であるが、その部屋は一面だけ壁がなく、外の空気や音を感じることができる空間だった。イスラームの礼拝の時間になると、その合図のアザーンがムスジッド(イスラームの礼拝所)から流れ、それが流れている間は休憩になる。雨が降って気温が下がると、練習で熱くなった身体に心地良い。大学のスクア

ヴァティー・ホールで練習しているときとは全然違う環境のせいだろう、勘違いだとは思いますが、自分が少し上手くなったように感じた。短期間の間に一通りの流れを覚えるのはとても大変だったけれど、インドネシア語もわからない私たちに一所懸命指導してくださったムルヤニ先生とトゥティ先生はそれ以上に大変だったことだろう。とても感謝している。

舞踊の練習以外にも、ボロブドゥールや結婚式、王宮の博物館を訪れたり、ジャワの正装をしてジャワ暦の年に1度しか踊られない舞踊を見たりなどして、インドネシア文化に触れることができた。ジャワ舞踊の練習を目的に訪れたインドネシアだが、実際に現地に行ったからこそわかること、納得することが数多くあった。たとえば、現地でこそあの日中の強い陽射しや朝晩の肌寒さなどの空気を感じることができたし、また、日本とは違う、植物の色濃い葉に原色の花々の鮮やかな色の世界を見れば独特の色彩感覚があって当然だとわかる。



正装しました(左から大迫、福島)

07.8.9スラカルタ王宮にて



### ジャワ舞踊「レトノ・ティナンディン」

07.11.3九州国立博物館にて

町行く人々を見ていると、皆、背筋は伸びているが無駄な力が入っていない。これはジャワ舞踊を踊るときの姿勢にも通じる。環境や普通に生活している人々からも舞踊を知ることができる。インドネシアを訪れたことで得たものは非常に大きかった。この経験を活かし、ジャワ舞踊を通して日本にインドネシア文化のすばらしさを伝えることに関わっていきたいと思う。

異文化を「舞踊」という切り口から自分の身体を通して感じ、学び、理解しようとする。そのきっかけを与えてくださり、インドネシアでもさまざまな経験をさせていただいてお世話になった田村先生とインドネシアの先生方に心より感謝します。

